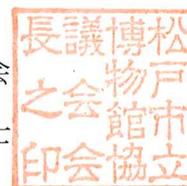


平成31年3月31日

松戸市立博物館長 望月幹夫 様

松戸市立博物館協議会
会 長 濱島 正士



松戸市立博物館の常設展示の一部改修について（答申）

— 「（仮称）こども歴史博物館構想」 —

平成29年10月8日付け松教生博第180号で諮問のありました標記について、次のとおり答申します。

目 次

はじめに（諮問に至る経緯）

第1章 松戸市立博物館のめざす姿

- 1 松戸市立博物館の現状と課題
- 2 松戸市立博物館に求められる役割とめざす博物館像
- 3 めざす博物館像に向けた具体的な方策

第2章 「（仮称）こども歴史博物館」の展示構想に向けて

- 1 目 的
- 2 めざす姿（基本的考え方）
- 3 学習指導要領改訂に合わせた「主体的・対話的で深い学び」の実現
- 4 「体験型学習」による質の高い理解
- 5 家庭教育・子育て支援のための施設としての役割
- 6 地域の教育力向上のためのツールとしての役割
- 7 「（仮称）こども歴史博物館」の設置実現に向けた基本方針及び基本計画の策定

資 料

- 1 博物館協議会での協議経過
- 2 各年度の協議会開催日と議題
- 3 松戸市立博物館協議会委員名簿（平成31年3月31日現在）

はじめに（諮問に至る経緯）

松戸市立博物館は平成5年4月29日の開館後25年が経過して、常設展示室（総合展示室、主題展示室）の展示機器や展示物等のハード面の老朽化が目立つようになり、また社会情勢の変化に伴うソフト面での新たな課題も明らかとなってきました。市民の期待に十分に答えるための博物館機能の充実が求められています。

このため、松戸市立博物館では内部研究会を立ち上げてリニューアルに向けた調査研究に努めてきましたが、平成29年10月8日の博物館協議会において、松戸市立博物館長から博物館協議会会長あてに諮問を受けました。

第1章 松戸市立博物館のめざす姿

1 松戸市立博物館の現状と課題

松戸市立博物館の現状認識と課題は以下のとおりと考えます。

- (1) 平成5年の開館からの数年間は、21世紀の森と広場、文化会館（森のホール21）との同時期開館により多くの市民に認知され、来館される施設となりましたが、それ以降に転入した市民には十分に認知されていない状況で、常設展示の来館者数が減少傾向にあります。
- (2) 松戸市立博物館の展示解説は、中学校卒業程度の理解度を想定した文章で作成されていますが、小学生以下の子どもや外国人来館者に対応できていません。
- (3) 多くの体験教室や講座を開催していますが、参加者が固定化していて、ファミリー層が休日を過ごす場所としての認知度も低い状況です。
- (4) 松戸市立博物館は、多くの縄文遺跡から出土した考古学資料や、本土寺過去帳などの中世史料、水戸街道や牧などに関する近世史料等を有する学術的な専門機関ですが、そうした認知がなされていないため、多くの市民に活用される施設となっていません。
- (5) 施設老朽化に対応した改修計画が必要となっています。また、最寄り駅（八柱駅、新八柱駅）からやや遠いためアクセスが悪く、専用の駐車場がないことも相まって、訪れにくい施設とイメージされています。

2 松戸市立博物館に求められる役割とめざす博物館像

市民の期待に応えるために、これからの松戸市立博物館には、次のような役割が求められています。

(1) 松戸ブランドの価値創出…市民が松戸の歴史や文化を誇らしく思えるための博物館として、本市の貴重な資源と財産であり続けること

- ① 松戸の歴史資源の学術的研究機関としての機能
- ② 集客力のある企画展の開催
- ③ こどもが楽しく歴史・文化を学ぶ参加・体験型博物館
- ④ こどもにもわかりやすい常設展示

(2) みんなが利用できる情報基盤の構築…松戸の歴史や文化の学術的価値を多くの市民に知ってもらい、活用してもらうこと

- ① こどももおとなも学習に活用でき、まちづくりに活用できるデジタルアーカイブ
- ② 情報発信を強化するとともに、利用しやすいアクセス手段の確保
- ③ 外国人の来館者に対応するため、多言語に対応した展示解説

(3) 協働のまちづくりの担い手としての人材育成拠点…歴史と文化を次世代に伝える人材を育成して、松戸に誇りと愛着をもつこどもたちを育てること

- ① 市民に向けて、まちづくりを学術的にサポートする体制づくり
- ② さまざまな団体が集える交流の場としての機能と人材育成の拠点

3 めざす博物館像に向けた具体的な方策

現在松戸市立博物館が抱えている課題を解決し、「めざす博物館像」の実現に向けて、以下のような具体的な方策が必要です。

(1) 安全のための総合展示室の大規模改修と、アクセスの改善を検討する

- ① 施設老朽化に対応するため、調査の結果耐震性において不適合であった吊り天井の改修工事や、修理不能となった照明器具の改修工事を実施する必要があります。
- ② 高齢者、身障者、こどもの団体利用のニーズに対応するために、来館者のアクセスの改善を検討する必要があります。
- ③ 総合公園内や総合公園駐車場からのアクセス表示をわかりやすく改善する必

要があります。

(2) 松戸市の歴史資源に関する学術的研究機関として、情報を整理し情報発信を強化する

①膨大な歴史資料等をデータ化して整理し、市民が活用できるようにデジタルアーカイブを構築することが必要です。

②より魅力のある企画展を開催し、企画展の内容を学術的な成果として残すことが必要です。

③松戸市立博物館が、市民にとっての歴史や文化の情報源として活用されるように、情報発信の強化を図ることが必要です。

(3) こどもや外国人にもわかりやすい展示内容と展示解説に改善する

①こども向けのプログラムを数多く開発するとともに、わかりやすい資料展示や展示解説の表示など、こどもたちが楽しく歴史学習をできる展示として改善することが必要です。

②外国人来館者のニーズに対応するため、多言語対応の展示解説や、音声データ等を利用した展示解説機能の充実が必要です。

第2章 「(仮称) こども歴史博物館」の展示構想に向けて

1 目的

これからのまちづくりのためには、松戸市で育つ「まつどっ子」たちが地元に着を感じることを肝要です。そのためにはこどもたちが正確な知識をもとに、地域の歴史を深く理解する必要があり、松戸市立博物館が「歴史博物館」として果たすべき役割のひとつはそこにあると考えます。

これからの松戸市立博物館は今までよりも若い世代の市民をターゲットとして、親と子、祖父母と孫のように、展示をきっかけにしてこどもと家族や地域・団体のおとなたちとが松戸市の歴史について語り合い、相互に学習できるような環境（施設）をめざし、世代から世代への連環と、世代を超えたつながりや学習の機会を持ち得るような環境（施設）づくりをすることが求められています。

そのためには、常設展示の一部改修を念頭に置いて、まず松戸の次世代を担うこどもとその家族や、地域・団体を主要なターゲットにした「(仮称) こども歴史博

物館」を設置することを主眼とする「（仮称）こども歴史博物館構想」について答申します。

2 めざす姿（基本的考え方）

松戸市立博物館は、展示や活動に関して独自の特徴を持ちつつ運営されています。これを踏まえて、「（仮称）こども歴史博物館」では、松戸市立博物館ならではの松戸の歴史を発見できるような展示としての特徴を持たせることが必要です。

多くの市民に親しまれ、楽しく訪れやすい施設となるためには、あらゆる年齢層の市民が博物館に来てどのようなことを学んでいくかということを考えると同時に、歴史には興味関心の薄い市民にも、訪れてもらうための仕組み作りが必要です。

松戸市立博物館には、開館以来各分野（考古学・歴史学・民俗学）にわたる館長を含めて8名の学芸員が配置されており、幅広い視点での展覧会、企画事業、講演会等を開催し、松戸の歴史や文化に関する社会教育に貢献してきました。これからの「（仮称）こども歴史博物館」の運営にあたっては、直接その事業に従事する専門家として、より多くの学芸員の人数を確保することが必要です。

3 学習指導要領改訂に合わせた「主体的・対話的で深い学び」の実現

小学校では2020年度から、中学校では2021年度から2030年度までを見据えて学習指導要領が改訂されます。この改訂学習指導要領の目的である「主体的・対話的で深い学び」を取組むための施設として、博物館の果たす役割の重要性がますます高まると考えます。

また、改訂学習指導要領では、遺跡や文化財についての調査活動を取り入れて専門機関との連携を図ることが求められております。松戸市立博物館では、これまでも「博学連携プロジェクト」に取り組んできていますが、今後は市の文化財保護行政担当課・担当機関とともに小中学校との連携がより一層必要となります。

小学校の教員は松戸出身者とは限らず、松戸の歴史についての知識が浅いこともあるため、「（仮称）こども歴史博物館」では、こどもたちにどのように学んでほしいか、何を身につけてほしいかのコンセプトを明確に発信することが必要です。あわせて、小学校3年生用の副教材『のびゆく松戸市』と連携した企画に取り組むことも必要です。

4 「体験型学習」による質の高い理解

こどもが主体的に楽しく学習に向かい、質の高い歴史理解をするためには、そのきっかけとなる「体験型学習」による取り組みが必要です。博物館に収蔵されている多くの実物資料に触れるなどの実体験は、より深い理解につながります。

「(仮称) こども歴史博物館」に「やってみようコーナー」「しらべるコーナー」「探検隊コーナー」「みんなのコーナー」を設置することにより、子どもたちの主体的な学習活動がわかりやすく展開し、その活動が総合展示、野外展示(復元竪穴住居)、企画展示と連携して、より深い学びにつながるような仕組みとすることが必要です。また、子どもたちが昔の暮らし方や知恵、人々のつながりを想像することにより、松戸に住んでいることを誇りに思えるような仕組みとすることが必要です。

こどもの「やりたい」「触りたい」「聞きたい」「知りたい」という思いにこたえるためには、こども自身の取り組みに共感でき、子どもたちに松戸の歴史を伝えられる「おとな」が配置されていることが必要です。また、こどもは自分が認められたという経験により大きく成長しますので、「(仮称) こども歴史博物館」では、「こども探検隊バッジ」や「体験スタンプ修了証」「こども歴史博士認定証」などの、こどもがわくわくするような仕掛けを作ることも必要です。

5 家庭教育・子育て支援のための施設としての役割

松戸市立博物館には小学校、幼稚園、保育所等の団体利用に向けてのプログラムはありますが、家族の多世代利用、すなわち休日に家族が博物館を利用して一緒に学ぶ体験ができるようなプログラムは充実していません。「(仮称) こども歴史博物館」には、親子が共通の体験をすることにより、学びと遊びの体験を共有できるようなプログラムが必要です。

家庭教育や子育てについて不安に感じている保護者には、親子が一緒の時間を共有したり経験を共有したりすることが必要であり、松戸市立博物館はそれが実現できる施設であることを強く伝えていく必要があります。

6 地域の教育力向上のためのツールとしての役割

松戸市立博物館では、「松戸市立博物館友の会」との協働によりさまざまな事業

に取り組み、相互の発展と市民の松戸の歴史や文化の理解の推進にあたってきました。今後はその連携をさらに進めるとともに、自ら子どもたちに歴史を伝える活動をする市民を増やすための人材育成の仕組みを作ることが必要です。

松戸市には、子ども会、放課後児童クラブ、青少年会館、児童福祉館、こども館、青少年相談員をはじめとするこども・子育て支援団体や施設が多く存在しています。それぞれの団体や施設と連携して、多くの子どもたちに「（仮称）こども歴史博物館」を活用してもらうことが必要です。

7 「（仮称）こども歴史博物館」の設置実現に向けた基本方針及び基本計画の策定

松戸市立博物館協議会は、これまで常設展示改修についての協議を重ねてきました。今後は本答申の内容を次期「松戸市総合計画」や「松戸市教育委員会教育施策基本方針」に反映させるとともに、松戸市立博物館「（仮称）こども歴史博物館基本方針」及び「（仮称）こども歴史博物館基本計画」の策定を進めてください。

資 料

1 博物館協議会での協議経過

平成29年度第1回博物館協議会において、事務局から内部研究会での博物館リニューアルに関する議論の経過、現状分析、今後の課題及び方策と「（仮称）こども歴史博物館構想」についての概要説明が行われた。

その後平成29年度第2回博物館協議会の場で松戸市立博物館長から博物館協議会会長あてに諮問があり、以後平成30年度第2回協議会まで計5回の協議が行われた。

2 各年度の博物館協議会開催日と議題

	年度・回	開催年月日	議 題
1	平成29年度第1回	平成29年6月4日（日）	(1)平成29年度博物館事業概要の説明 (2)「（仮称）こども歴史博物館」の展示構想について (3)館蔵資料展「木の造形 東北の伝統こけし」内覧と評価 (4)その他
2	平成29年度第2回	平成29年10月8日（日）	(1)会長・副会長互選 (2)平成29年度博物館事業上半期の報告 (3)松戸市立博物館の常設展示の一部改修について（諮問） (4)企画展「本土寺と戦国の社会」内覧と評価
3	平成29年度第3回	平成30年3月3日（土）	(1)松戸市立博物館「（仮称）こども歴史博物館」の展示構想と基本計画（案）について (2)その他
4	平成30年度第1回	平成30年6月2日（土）	(1)平成30年度博物館事業概要の説明 (2)「（仮称）こども歴史博物館」の展示

			構想について (3) 市制施行75周年・開館25周年記念 館蔵資料展「まつどの江戸時代ー古文書・絵画・模型からさぐるー」内覧と評価 (4) その他
5	(出席者不足で会議不成立のため、懇談会として実施)	平成30年11月24日 (土)	(1) 平成30年度博物館事業上半期の報告 (2) 「(仮称) こども歴史博物館」の展示構想について (3) 平成30年度市制施行75周年・開館25周年記念 特別展「ガンダーラー仏教文化の姿と形ー」内覧と評価 (4) その他
6	平成30年度第2回	平成31年3月2日 (土)	(1) 「(仮称) こども歴史博物館」の展示構想について (答申) (2) その他

3 松戸市立博物館協議会委員名簿 (平成 31 年 3 月 31 日現在)

	委員区分	氏名	役職	備考
1	1号委員 学校教育関係者 (校長会代表)	水嶋 淳一	松戸市立寒風台小学校 校長	
2	1号委員 学校教育関係者 (小中学校代表)	佐藤 祐介	松戸市立六実小学校 教諭	
3	2号委員 社会教育関係者	山口 恵理子	北部幼稚園副園長 社会教育委員 (松戸市)	

4	2号委員 社会教育関係者	岡田 啓峙	松戸市立博物館友の会 会長	
5	2号委員 社会教育関係者	谷鹿 栄一	千葉県立関宿城博物館 館長	
6	3号委員 家庭教育の向上 に資する活動を行 う者	百田 清美	NPO 法人ねばあらんど 理事長	
7	4号委員 学識経験者 (考古学)	安蒜 政雄	明治大学名誉教授	博物館協議会 副会長
8	4号委員 学識経験者 (建築史学)	濱島 正士	国立歴史民俗博物館 名誉教授	博物館協議会 会長
9	4号委員 学識経験者 (近世史)	佐藤 孝之	東京大学教授(史料編纂 所) 文化財審議会委員(松戸 市)	
10	4号委員 学識経験者 (民俗学)	小島 孝夫	成城大学教授(文芸学部 ・大学院文学研究科)	